

公表

児童発達支援事業所における自己評価結果

事業所名 ぐんぐん九条

公表日 令和 7 年 4 月 25 日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	10	0	活動スペースは広く、個別活動室が2部屋設置されている。定員人数が利用しても、安全で安心して利用できるスペースである。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	10	0	リスク管理を行い、安全に支援できる職員数を配置している。スタッフ1名に対し児童2.5名の対応。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	10	0	視覚支援を大事にした掲示物等を掲示している。洗面所は低く設置されており、児童が使用しやすくなっている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	10	0	毎日、清掃をして清潔に保っている。基本的な感染予防対策も行っている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	10	0	個別活動の部屋は、必要に応じて使用できる。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	10	0	PDCAサイクルを実施することによりやるべきことが具体的に業務改善につなげている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10	0	保護者の意向に対し、事業所内で検討して業務改善につなげている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	1	朝礼などで情報共有を行い、事業所内で検討し業務改善につなげている。事業所内での連絡ノートも作成し、情報共有に努めている。	事業所内で検討したことを質の高い業務改善につなげていく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7	3	現在は行っていない。	外部評価を受ける機会を設けて、業務改善につなげることを検討していく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	10	0	年間スケジュールを立てて定期的に研修会を開催し資質の向上を図っている。外部研修にも積極的に参加している。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	10	0	支援プログラム内容を把握していただけるよう工夫して作成し、公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	10	0	保護者のニーズをモニタリングして客観的に分析し、学校や事業所の職員の意見も取り入れて支援計画作成を行っている。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10	0	支援計画作成時は、児童発達支援管理責任者だけでなく、事業所内会議を行い検討している。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	10	0	支援計画はいつでも目を通すことができ、支援計画をもとに支援方法を検討している。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	10	0	フォーマルなアセスメントやインフォーマルなアセスメント両方を用いて児童の適応行動の状況を確認している。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	10	0	児童発達支援ガイドラインに基づいて個々の児童にあった具体的な支援内容を支援計画に反映している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9	1	児童の特性や発達ニーズに沿った活動を職員で提案し、支援を提供している。	児童にとって、安心して参加できるプログラムの検討をチームで行っていく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9	1	児童の特性に合わせた活動プログラムを検討している。	児童にとって、楽しく前向きに参加できるプログラムを常に検討していく。

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせで児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	10	0	集団と個別をバランスよく組み合わせで個々の支援内容を作成している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9	1	支援内容や分担についての情報共有は必ず行い、支援提供している。	情報共有を行い、連携を密に支援提供していく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	2	振り返りを行い、職員間で情報共有を行っている。	当日に送迎等で情報共有ができないときは、翌日に行っている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10	0	個別にノートを作成して日々の記録はしっかりと行っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	10	0	6ヶ月に1回モニタリングを行い、支援計画を見直している。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	10	0	サービス担当者会議、関係機関との会議に児童の状況を把握している児童発達支援管理責任者が出席している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	10	0	信頼関係の構築ができるよう関係機関との連携を密に一貫性のある支援を提供している。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	10	0	関係機関と連携を密に行い、一貫性のある支援につなげている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	10	0	就学をふまえた移行支援を関係機関と連携をとって行っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	8	2	必要に応じて、専門機関と連携している。	専門機関と連携を密にする。
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
保護者への説明等	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	7	3	普段の外出支援時に、他のこどもたちと一緒に遊具を使う機会、あいさつする機会などを通じて、交流の幅を広げている。	交流の幅をさらに広げて、社会のルールを学ぶ機会を提供していく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	10	0	送迎時に児童の日々の様子を伝え、LINE等も活用し連携を図っている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	5	交流会への期待や参加意欲は保護者によって異なるため、現在は行っていない。	保護者の声を反映した研修会開催等を検討する。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10	0	契約時に説明を行っている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10	0	モニタリングを行い、より効果的な支援を行うために児童や保護者の意向を確認している。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	10	0	児童発達支援計画を示しながら、各項目の支援内容について説明し、保護者から同意を得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	10	0	相談時には保護者の意向を確認し、適切な助言や支援を提供している。	

非常時等の対応	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	8	イベントの参加意欲は保護者によって異なるため、現在は行っていない。	保護者の声を反映した交流会開催を検討する。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10	0	相談時は迅速に対応し、安心して利用していただけるよう信頼関係の構築を図っている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	10	0	LINE等で保護者に児童の様子を発信している。さらに、イベント前に案内の詳細プリントを発信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10	0	職員間で意識をもって、配慮・注意している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10	0	児童の特性を理解し対応している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	4	地域活動を通して、地域の清掃を行っている。お買い物イベントでは、地域の商店街の方との交流も行っている。	地域との交流もニーズに合わせて幅広く検討していく。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	10	0	マニュアル作成や研修のほか、年に2回避難訓練や虐待・感染症についての訓練も行っている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10	0	業務継続計画（BCP）を策定しており、研修や訓練を実施している。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	10	0	服薬や予防接種、てんかん発作についての確認は行っている。特にてんかん発作では症状・対応についても職員に周知している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	10	0	アレルギーに関する情報は確認している。医師の指示書がある方は提出していただき、常に注意を払い対応している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10	0	安全計画を作成し、年間を通して必要な研修・訓練を実施している。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	10	0	安心して利用していただけるよう安全計画内容を保護者に伝えている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	10	0	ヒヤリハット報告書を作成して、職員に情報共有を行い、再発防止に努めている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	10	0	虐待防止・身体拘束適正化研修を行い、報告書を作成している。虐待防止委員会も設置している。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	10	0	身体拘束の同意を得て、支援計画に記載している。できる限り身体拘束を行わないよう取り組みんでいる。	